

道徳教育方法研究

第7号

2001

I. 研究論文

1. 教員養成段階における道徳授業実践研究の意義

堺 正之 / 石硯 昭雄

2. チェックカードを用いた道徳授業評価の実際

坂口 弘昭 / 植田 治昌 / 森岡 卓也

3. 書く活動を中心にした中学校の道徳の授業
—道徳的価値の自発的な顕在化を目指して—

品川 利枝

4. 論争的課題としての道徳教育研究の位相
—英語圏を中心とした展開過程における—視覚—

谷田 増幸

5. 道徳的体験の経験化を意図した道徳授業の試み

田沼 茂紀

6. 子どもの変容としての「道徳的価値の自覚を深める」
—道徳の時間の効果はどの程度見えるか—

服部 敬一

7. ケアリング理論とエリクソンのケア理論との関連における—考察

戸來 知子

II. 実践研究報告

1. 異学年とすすめる道徳の授業

植田 治昌

2. 授業における教師の受容と子どもたちの関係性 I

田村 博久

3. 価値観交流を通して、内面的な力を育てる道徳学習誘導
—「協同学び」を中核とする学習展開—

深田 真二

4. 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の在り方に関する一考察

宮井 優寿 / 岡田 康孝

5. 「命の尊さを考える教育」の進め方と教材開発

山下 守

Ⅲ. シンポジウム 道徳授業は子どもの問題行動に対応できるのか

1. シンポジストの発表資料

- (1) 道徳授業は子どもの問題行動に対応できるのか
—感じて応じる力、子どもの潜在的な求めを大切にしながら—

植松 伸之

- (2) 希望と信頼そして慕情
—高知県希望ヶ丘学園内分校の取り組みを通して—

天野 順造

- (3) 道徳授業は子どもの問題行動に対応できるのか
—シンポジウムに参加して—

初田 幸隆

- (4) 道徳授業は子どもの問題行動に対応できるのか

林 泰成

2. 司会者のまとめ

上藪 恒太郎

Ⅳ. 会務報告

Ⅴ. 日本道徳教育方法学会会則

Ⅵ. 『道徳教育方法研究』投稿規定

Ⅶ. 欧文サマリー

編集後記